

法政大学と仙北市が地域づくりの事業協力協定締結

法政大学と仙北市が連携して地域活性化に取り組む事業協力協定の締結式が2月1日、角館交流センターで行われました。

締結式では、法政大学常務理事で地域研究センター所長の武田洋氏と石黒市長が協定書を交換し握手を交わしました。武田常務理事は「法政大学は社会、地域に開かれ、貢献できる大学を目指している。今後、仙北市の地域づくりに協力し、共に取り組んでいきたい」とあいさつ。続いて石黒市長が「法政大学の協力をいただき、地域活性化、人材育成等に取り組みながら、元気ある北東北の交流の拠点になれるようにがんばりたい」とあいさつしました。

協定締結後の最初の事業として2月23日に「地域づくり塾」が開講され、同大学の岡本義行教授による出張授業が行われ、3月にはテレビ会議システムを使った遠隔授業が予定されています。



握手を交わす石黒市長と武田常務理事



地域活性化について意見が交わされたパネルディスカッション

式典終了後、秋葉原タウンマネジメント株式会社専務取締役の関幸子氏を講師に、「地域づくりの戦略:まちづくり会社の経験から」と題した基調講演が行われ、続いて、岡本教授をコーディネーターに、石黒市長、藤原里香氏(田町武家屋敷ホテルコーディネーター・ライター)、関幸子氏、安田巨宏氏(株式会社ジェイ・アイ・シー旅の販促研究所執行役員所長)、松本敦則氏(法政大学准教授)がパネリストとなり、「地域の賑わいをどのように生み出すか」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

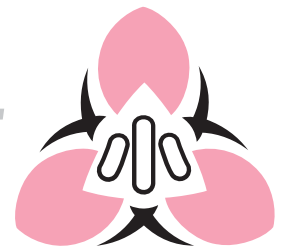
角館小学校の校章と校歌が決定

昨年10月から11月にかけて募集していた角館小学校の校章デザインは、市内小中学生から計429点の応募があり、予備選考で35点に絞られた後、1月に行われた最終審査で、角館中学校の田口睦さん(3年)の作品が最優秀作品として決定されました。最優秀作品の選考理由は、丸みのある桜の花びらが特徴的であり、つなぎのKのイニシャルも全体を引き締めており、まとまりのよさが1番であるとの理由でした。

また、佳作には角館中学校の千葉佳織さん(3年)と西長野小学校の伊藤亜莉沙さん(2年)の作品2点が選出されています。

校歌は、川村三千夫氏(角館町雲然)の作詞、角館町出身の鈴木繁氏(仙台市)の作曲により完成しました。

作詞した川村氏は、句歴50年を超え、角館町芸術文化章や秋田県芸術文化章を受章されているほか、角館西小学校の校歌の作詞者でもあります。また、作曲した鈴木氏は、現在仙台フィルハーモニー管弦楽団に所属するほか、東北全域で小中学校コンサートなどを開催し、音楽の楽しさや素晴らしさを伝えていきます。



角館小学校校歌

- | | |
|---|---|
| <p>1. みどりの風の さわやかに
いのちあふれる この大地
元氣にからだ きたえ合い
みんな すこやか 角館
明るい声が こだます</p> | <p>3. 桧木内川 せせらぎの
若あゆのよう きらめいて
感じるころ みがき合う
みんな いきいき 角館
広い世界に はばたこう</p> |
| <p>2. 桜の花の 咲きみちで
清らかな歌 流れくる
郷土のほこり 受けついで
みんな しなやか 角館
明日に向かい 伸びていく</p> | |

田口宗平氏に経済産業大臣表彰功労賞

経済産業省が実施する「平成19年度伝統的工芸品産業功労者表彰」で、角館工芸協同組合理事長の田口宗平氏が経済産業大臣表彰功労賞を受賞されました。

この賞は伝統的工芸品産業の振興に関し、顕著な功労があった個人等を表彰することにより、伝統工芸品の国民生活への一層の浸透及び当該産業に係わる者の意識の高揚を図り伝統的工芸品産業を振興する事を目的としています。

田口氏は樺細工業界の共同仕入れの提唱や後継者育成事業の推奨など、樺細工の振興に寄与したことはもとより(財)伝統的工芸品産業振興協会の副会長及び理事を歴任され、全国の伝統的工芸品の振興に顕著な働きがあったことが認められ今回の受賞となりました。

